長洲町立長洲小学校　校長便り　No.５３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年１１月２８日(月)

徒然

私は休みの日にウォーキングをしています。距離は平均して13㎞です。結構ハードですが、景色を眺めながらのウォーキングは発見も多く、楽しいものです。ランニングも考えましたが、年齢的、体力的なものから歩くという選択をしました。ウォーキングは有酸素運動ですから、我々の年齢からすると激しい運動を行うよりも体には良いようです。歩行中は30分おきに水分補給をしますが、その時に景色が良い場所であれば何か得をした気分にもなります。

ある日のウォーキングは、立田山自然公園側から立田山山頂を目指しました。このコースは歩く距離は短いのですが、勾配が急で結構息が上がります。それでも途中の道すがらウォーキングしている皆さんと挨拶を交わし、水分補給時に周囲の紅葉を見ると、心が洗われる感じがします。

立田山は私にとって「きつかった」思い出のある山です。高校時代持久走が立田山で行われていたからなのです。貯水池（配水池）コース、豊国コース、頂上コースの３つのコースがあり、頂上コースは大変でした。殆どが上り坂ですからね。ウォーキングでは頂上からゆっくり下りながら、当時のことを思い出しました。「ここで近道したな。」とか、「この坂でこけたな。」とか、数十年前の話なのに結構覚えているものです。それだけ楽しい時期だったのかもしれません。当時はあまり気にもしていませんでしたが、立田山は林業に関する研究が行われていますね。幾つもの区画に分けられ、様々な研究が進められています。しかし最近別の問題があるようです。それは「いのしし」です。あちらこちらに捕獲用の罠が仕掛けられています。

ただ歩くだけなのに、色々考えたり発見したりと、充実した時間を送ることができます。

子ども達が生きる未来社会④

今の子ども達の65％は、今は存在していない職業に就く、今後１０～２０年で、雇用者の約４７％の仕事が自動化されるといった予測があります。どんな仕事が無くなり、どんな仕事が生まれるのかは、前回までにお話しした Society5.0 やＡＩと関連があります。自動化される仕事は、職業としては存在しなくなる訳です。例えば、乗り物の運転や操縦はすでに自動化がかなりの段階まで進んできていますね。バスやタクシーは未来社会では無人のそれが走っているかもしれません。

「Society5.0」とネットで検索すれば多くの情報が得られます。その中でも紹介されていますが、先ほど紹介された無人運転、ドローンによる宅配、ＡＩ家電、ＡＩスピーカー、遠隔診療、スマート農業…、ＡＩが私達人間に替わって多くの仕事を為すようになるという訳です。便利な世の中になっていくことは間違いありませんが、予測困難な未来であり、そこで今の子ども達は生き抜き社会を支えていかなければならないのです。しかし、どれだけ社会が未来型になったとしても、それを産み出し支えるのは生身の人間です。人と人とのコミュニケーションの中で社会を形成しているのです。

「Society5.0」を迎える前に、私達は何を準備しなければならないのでしょうか？　私は主体性、協働性、創造性を身に付けることだと思います。長洲小学校が目指していることそのものです。

シリーズ「自分を語る」＃５３

平成１０年度の学級には怠惰による不登校傾向のお子さんがいました。私は子ども達を観察する視点として、現象面だけでなく家族背景や本人の性格（特別支援教育の視点からの性格）、お家の人たちの願いも参考にします。確かにこのお子さんの不登校傾向の理由は「怠惰」でした。しかもその理由には驚かされることが多く、「ゲームがしたい。」「テレビが見たい。」というようなものでした。それなら話が早いです。学校が家にいるよりも魅力的な場所に変えればいいのです。と言ってもそう簡単なものではありません。保護者の皆様にもあると思うのですが「学校は好きだけど、勉強は嫌い。」という気持ちです。そこで、その年に徹底していきたいことを幾つか、子ども達に告げました。

基本の考え方「時を守り、場を整え、礼を尽くす」　それを基本とし、

第１に「嘘をつかない。」

第２に「ダメなものはダメ、せにゃんいかんことはせにゃん。」（是々非々の考え方）

第３に「規則が守られる学級を目指す。」

第４に「正義が認められる学級を目指す。」

第５に「甘えやわがままは許さない。」

この年に担任させて頂いた学級は、もともと能力の高いお子さんが多い集団でした。特に勉強に関しては、それまでの職員が伝統的に鍛えておいてくださったおかげでした。この学級の教え子から「医者」が２名生まれ、現場で活躍している２人はよく私に連絡をくれます。「うちの病院で検査してください。」とか、「先生のホームドクターになります。」と言ってくれます。でも複雑です。少々怖いです、彼らの小学生時代を知っていますから…。話が逸れましたね、もとに戻しまして…。

不登校傾向のお子さんはとても優しく、皆から親しまれていました。彼はゲームとテレビがとても好きで、大袈裟かもしれませんが「寝食を忘れる」こともあるそうで、これではいけないと、お家の人がテレビやゲームの横に食事を持って行ってあげていたそうです。これが成長期の子どもに良いわけがありません。その辺りからアクションを起こさないと、この子は本当に不登校になってしまう、引きこもりになってしまう、と危機感を持ちました。

４月は調子よく登校していた彼ですが、ゴールデンウィーク明けから雲行きが怪しくなってきました。そこで、朝から迎えに行く作戦を講じました。私が迎えに行くこともありましたし、友達が誘うこともありました。５月を持ちこたえ、６月からはナイトハイクの話も出るようになり、彼も無事に夏休みを迎えました。しかも、ナイトハイクの参加申し込みもしていて、私を含めた学年部の先生方が、あまりの彼の変わり様に目を見張るほどでした。

しかしながら、この話の「落ち」はナイトハイク当日に起こりました。玉名でのナイトハイクの移動はＪＲを利用していましたので、集合はＪＲ玉名駅でした。集合時刻の30分前からほぼ全員集まっていましたが、彼だけがいません。連絡もありません。どうしたのでしょう…。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）